

令和5年度第2回 静岡市農業振興協議会会議録

- 1 日 時 令和6年3月6日(水) 10時00分～12時00分
- 2 場 所 静岡市役所清水庁舎 3階 312会議室
- 3 出席者 (委員)
森田会長、石切山副会長、三津山副会長、市川委員、佐藤委員、
杉山委員、竹内委員
(事務局)
大村農林水産統括監、小川農林水産部長、
気田中山間地振興担当部長、花村農業政策課長、
遠藤農地利用課長、石田農地整備課長、太田中山間地振興課長、
鈴木お茶のまち推進担当課長、石川課長補佐、水嶋係長、
宇佐美係長、永野主任主事、岡部主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 次 第
(1) 開会
(2) 会長あいさつ
(3) 議事
第2次静岡市農業振興計画進行管理
① 令和5年度取組状況について
② 令和6年度実施計画について
(4) その他報告事項
(5) 閉会
- 6 会議内容
○ 開会 会議成立の報告(委員9名中7名出席により、会議は成立)
- (3) 議事
① 令和5年度取組状況について
② 令和6年度実施計画について
(4) その他報告事項
- (事務局)
「①令和5年度取組状況について」を資料1・2により説明

(森田会長)

事務局からの説明に対して、ご質問等がありましたらお願いします。

(石切山副会長)

蒲原のほ場について、現在の利活用状況を教えてください。

(事務局)

今年度は、1人あたり約1,000㎡を1区画として、研修生6人を受け入れ、認定農業者の方に講師を担っていただき、研修を行っています。

(石切山副会長)

栽培する品目は複数ありますか。また、販売などを行っていますか。

(事務局)

年間計画を立て、栽培する品目は15種類ほどです。市が行うイベント等にて一部の作物を販売しています。

(杉山委員)

資料2-1農業所得の向上への取組で、ブランド力の強化や6次産業化の推進、輸出拡大の支援などと記載がありますが、先日農業サミットで農家を視察した際、視察先は農協の力を借りずに、自分たちで販売等を行っているところでした。そのような先進的で独自に頑張っている農家もいますが、農業全体からするとごくわずかで、小さな農家が全体を支えているのが現状です。個々の農家の努力には限界がありますので、ぜひ農協が頑張してほしいと思います。また、担い手の高齢化は農家自身も危機意識を持っています。高齢になるにつれ、農作業はより重労働と感じますので、今後はスマート農業を進めていく必要があると思います。

(事務局)

市としては、農業が魅力的な産業になるよう、地域計画の策定などで土地を集約したり、スマート農業を進めたりすることなどが重要になると認識しております。本市の土地の形状や農産物を考慮しながら、本市に合った施策を行っていきたいと考えています。

(森田会長)

市の施策だけでなく、国と県の施策もある中で、全体を有効に活用すべきだと思います。また、農業といいながらも観光や食、健康など他分野とも関係がありますので、様々な視点で考える必要があると思います。

(佐藤委員)

有機農業に関する項目が多いと感じますが、これからの時代、環境に配慮した農業

を進めていくのは社会的に大事だと思いつつ、高齢化と若手不足、人件費の高騰、温暖化も進む中で、本当に有機農業でやっていけるのかなという心配があります。日頃、農協青年部の農家と話をしていても、有機農業をやってこうっていう話を聞いたことがないのが実際のところなんです。仮に有機農業をするにしても、まずは基盤整備が必要だと思いますし、有機農業は手間がすごくかかるので、基本的な農作業が合理的に行えるベースがあった上で、有機栽培を進めていかないと、本当に草取りだけで仕事が終わってしまうようなことになるとと思います。基盤整備や買い替えに対して手厚い助成をしていただけたら、農家としては嬉しいです。

(杉山委員)

佐藤委員の意見に関連して、確かに有機農業というのは大変手間のかかる仕事だと思います。現状、肥料が非常に高騰していて、費用削減のため、堆肥を肥料代わりに蒔くような、そういう形で有機農業と言いますか、その方向には進んでいると思います。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。様々な作物がある中で、いろんな栽培方法があります。土壌の問題であったり、農薬の飛散（ドリフト）の問題であったり、そういったものもあります。まずは基盤整備をするなど、重点施策を明確にしながら実行する必要性があると認識していますので、来年度に向けて関係者の皆様と話をしながら進めていきたいと思っています。

(森田会長)

令和6年度の話も出てきていますので、(2) 令和6年度実施計画についてへ移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

「②令和6年度実施計画について」を資料3・4により説明

(森田会長)

事務局からの説明に対して、ご質問等がありましたらお願いします。

(三津山副会長)

資料のNo3と4の事業について、相手国の選定理由を教えてください。

(事務局)

まず、本市のお茶の輸出拡大支援ということで、従来からヨーロッパ、ドイツ・イタリアを中心に、現地でのプロモーション等を通じて、拡大を図ってきました。その成果もあってか、年々輸出量は増加しています。まだまだ全体の生産量に対する輸出の割合は少ないものですが、成果を上げているところもあり、今年度から新たにフラ

ンスをターゲットとして活動を始めています。ヨーロッパは、お茶の単価が高く、フランスは煎茶を比較的好むという嗜好がありますので、フランスを新たなターゲットにしているところです。次に、5市2町事業ですが、5市2町の首長レベルの会議の中で、お茶をはじめとした農水産物の輸出を一緒に図っていくことになりました。相手国としては、お茶について各市町に意見を聞いたところ、茶の輸出の最大相手国であるアメリカをターゲットにしたいという意向があり、静岡市も単独でヨーロッパについてはやっていたので、一つはアメリカになりました。そして、焼津市や吉田町はお茶の産地ではないため、お茶以外の農水産物の輸出相手国としてアジア地域でもう一つとなり、和食が非常に伸びているタイをターゲットにしたいという両市町の意向を尊重し、選定しました。

(三津山副会長)

特にお茶は、有機栽培と非常に絡んできて、ヨーロッパは特に規制等が厳しいので、有機栽培への転換に踏み切れるかどうかという農家の判断において、出口戦略といえますか、高値でしっかり売れるということが確保できていないと踏み切れない部分は当然あると思いますので、しっかりやっていただきたいと思います。

(市川委員)

行政として国・県・市町がある中で、具体的施策を検討する際に、各行政の役割分担と連携は必要だと考えています。資料4のNo5の「やろうよ静岡農業定着支援事業」などの中身を聞いたら非常に良い事業だと感じました。それは、県の事業がある中で、その隙間を市の施策が埋める事業だからです。国の制度も含めて県の事業で足りないところがあれば、県に相談いただければ、県の他の事業で対応できるかもしれませんし、無ければ、市が施策を考えていただくことができると思います。ぜひ、そういったことを情報交換・調整していきたいと考えています。また、有機農業やスマート農業については、県には研究所があり、県に問合せいただければ、紹介できるものもあると思います。県庁内部でも、研究成果がまだまだうまく生かせていないと考えていますので、活用していただきたいと思います。それから、農地の集約に関しては基盤整備とセットでやらないと難しいとよく話を聞いています。地域計画を策定する中で、地域から基盤整備の要望があがってくることも想定されますので、ぜひ連携してやっていきたいと思います。旧清水市の基盤整備というと、原地区などの大規模ないわゆる農地の区画整理のイメージを皆さん強く持たれていると思いますが、ここ数年では、オクシズ地域などで小規模な基盤整備の事例が出てきています。今後はきめ細かなことをやらないといけないと考えていますので、ご相談いただいて、一緒に進めていきたいと考えています。ぜひ、これから一緒に頑張っていければと思いますので、よろしくお願いします。

(竹内委員)

有機農業に私どもは結構注目しており、これからは安心安全な食べ物を求めていく人が多くなっていくのではないかと思います。価格面については、多少高くても、安

心安全なものを求める志向は多いと思います。また、生産性について先ほど話が出る中で、専業農家はやはりピラミッドで言うと一番頂点の方だと思いますが、裾野の大切さみたいなものもあると思います。裾野が広がっていくとだんだんその人たちも成長して、ピラミッドの上の方に上がっていく人も出てくると思います。兼業農家や新規就農される方への支援に力を入れていただきたいと思います。次に、循環型社会を作っていくときには、環境創造課やごみ減量推進課など他課との連携が大切で、若い人たちはそこにすごく興味を持っていて、行動に移す人たちが出てきています。その他、学校給食の残食については、廃棄をしない、食品ロスを出さないというところもありますが、食品ロスが出てそれを有効活用するところにも協力していきたいと考えています。

(森田会長)

ありがとうございます、各所属の立場からご意見いただきました。その他、ございますか。

(石切山副会長)

先ほどの消費者協会会長の竹内さんの言葉にあった「有機農業に興味があり、高くても買います」という非常に力強いお言葉をいただき、農家の皆さんの生産意欲がわく言葉だと思います。先ほど説明のあった新規事業の「やろうよ静岡農業定着支援事業」については、昔あったトライアル事業という研修生を受け入れる事業に内容を追加した事業だと認識しました。新規就農にあたり、研修を受けて、どの作物を生産しようか、例えばハウスで枝豆やいちごを作るなど、そのマッチングが非常に大事だと思います。その中で、未収入期間があり、それによりリタイアすることなどがないように、地域計画等での色々な意見も踏まえ、我々も協力しながら進めていきたいと思っています。

(森田会長)

事業については、事業の目的やKPIなどの説明がほしいと思います。事業を具体的に説明していただくと、各委員はその評価であったり意見であったりを言いやすいと思いますので、今後はよろしくお願いします。では、その他の報告事項に移ります。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

「地域計画について」を資料5により説明

(森田会長)

事務局からの説明に対して、ご質問等がありましたらお願いします。

(杉山委員)

現在、農業をしている年代というのは団塊の世代の方々が非常に多く、そういう方

は、あと5年後ぐらいまでは何とかできるが、10年後となると非常に難しいなという思いがあると思います。私の地域では、過去に基盤整備を行ったことで、農家が現在も農業を続けられていると感じており、その整備があったからこそ、後継者がいると言ってもよいと思う一方で、今後、全体の基盤整備を農家がまかなえるのかということ、ちょっと厳しいかなと思います。それなので、せっかく基盤整備を行った農地をいかに利用するかということを見ると、法人化について考えていく必要があると思います。

(佐藤委員)

これから農地を集約して規模拡大を考える若手農家としては、地域計画の策定というのはありがたいことですが、計画を作って、このエリアはこの人がやると決めたとしても、実際の農地貸借というのは隣で農業をしている方に地主さん同士とか農家同士とかで話を決めてしまうことが多いので、そこを少しでも改善していかないと、なかなか計画を作っても思ったとおりに集約が進まないと思います。

(三津山副会長)

意向調査アンケートについて、アンケートの返信率が約6割ということは、残り4割の方からは返信がない状況です。これから地域計画等を作っていくにあたり、返信がない人たちの意向がかなり進捗に関わってくると思います。返信がなかった4割ぐらいの方に対して、例えばもう1回アンケートを出すなど何か対策を考えていますか。

(事務局)

返信が無い方というのは、例えば県外にお住まいであったり相続された方などであったり様々です。これから地域と協議していく中で、必要性が生じた場合は、再度意向確認を行うかどうかについて、検討していきます。

(森田会長)

それでは次の報告事項に移ります。事務局よりお願いします。

(事務局)

「静岡市グリーン農業フォーラムについて」を資料6により説明

(森田会長)

事務局からの説明に対して、ご質問等がありましたらお願いします。

(三津山副会長)

資料にある体制図について、緑色で調達・生産・加工流通・消費とありますが、この調達というのは、どういうことを意味していますか。

(事務局)

調達というのは、資材関係者の方のことで。

(杉山委員)

報告の中で、給食の話がありましたが、以前は給食時などにお茶を飲む機会がありましたが、現在は飲む機会が無くなっています。お茶の産地としては、やっぱり子供たちに飲む機会を作ってほしいと思います。

(佐藤委員)

全体を通してですが、資料2-1の課題のところに、「農産物販売金額が500万円未満の経営体が全体の約8割」とありますが、その500万円未満の中には、兼業農家や引退間近の方などが結構いると思います。どちらかという、残り2割の農家の中に、農業専業でやっていこうとか、農業を引っ張っていくような方が含まれていると思います。もちろん、農業者全体を支援していただきたいですが、500万円未満が8割いて、そこを主眼に置いて色々な補助金などを設定してしまうと、売上がもっと大きい農家が十分な支援を受けられていないと感じています。去年の資材高騰対策の補助金などでも、売上が多い農家では補助率50%で上限額20万円だと、上限額を超えて、満額支援を受けられていません。また、鳥獣被害はかなり深刻で、茶畑も被害を受けています。そういった中で、現在の農業経営者は2、3ヘクタールを当たり前に経営していくようになってきていますし、これから高齢で辞めていく方の農地などを吸収して拡大していくことも考えています。農家の2極化が進む中で、全農家に対し一律に支援していくのは結構無理があるような気がしています。なので、経営規模や認定農業者かどうかなど、そういったところを基準にして、いろんな支援を柔軟性をもって実施していただけると非常に活用しやすいと思います。

(森田会長)

ぜひ施策に生かしていただきたいと思います。その他、ございますか。

(石切山副会長)

地域計画について、これからの地域農業の指標になると思いますので、行政とJAなどが密接に連携をとりながら進めていただきたいと思います。

(森田会長)

そういう意味では、静岡市グリーン農業フォーラムもそういう一環の一つとして組織を作ったと理解していますので、ぜひとも現場含めて一体感を持って進めていただきたいと思います。それではその他質問等もないようですので、第2回農業振興協議会を閉会します。

■会議録確認署名

「令和5年度第2回静岡市農業振興協議会会議録」について、内容を確認しました。

静岡市農業振興協議会 会長

氏名(署名) 森田明雄